

令和元年度 夢の樹みどり 事業実績報告書

1 総括

平成29年4月に生活介護事業所として再スタートを切り3年が経過した。今年度は30年度後半に実施したグループ分けを基に、活動や支援の一層の充実と新規利用者8名の順調な新生活への移行を重点課題として取り組んだ。新たな活動プログラムの開発や新規作業開拓は計画通り実行でき、活動プログラムの充実は行うことが出来たが、一人ひとりの利用者への支援の充実という点では不十分であったと感じている。職員間の情報共有、支援方針の統一、目的意識の共有や協力体制などチームワークの形成が不十分で、利用者一人ひとりの支援を組織的に行い、その成果を検証する姿勢が不足していた。これらの反省を基に、施設長とグループリーダーのコミュニケーション強化を図り、支援の在り方を再度全職員で考えながらチームワークの強化に取り組み始めたところである。

30名でスタートした利用者数も次年度に45名となるが、施設の適正規模を考えると、これ以降の新規利用者の受入れは困難な状況となる。しかし、生活介護事業所への地域のニーズは今後も高いと推測され、新たな事業所の開設の検討が必要と考えている。

2 事業概要

1) 施設名	夢の樹みどり		
2) 事業種別	生活介護		
3) 所在地	東京都小平市小川町1-744-1		
4) 運営主体	社会福祉法人 未来		
5) 利用定員	40名		
6) 利用現員	43名 (令和2年3月31日現在)		
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日		
8) 事業開始年月日	平成29年4月1日		
9) 職員	25名 (令和2年3月31日現在)		
	管理者	1名	
	サービス管理責任者	1名	(常勤換算1.0)
	生活支援員	20名	(常勤換算17.9)
	看護師	4名	(常勤換算2.7)
	嘱託医	1名	

- 3 基本理念
- 一人ひとりの自己実現の支援
 - 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
 - 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 安心できる将来への支援

5 実施事業 (活動内容)

1) 就労支援事業

- ① 資源回収
- ② 公園清掃
- ③ 堆肥配布
- ④ 使用済み小型家電回収
- ⑤ ポスティング
- ⑥ 書類封筒作成

- ⑦ 紙袋底板入れ
- ⑧ 缶・ペットボトル潰し
- ⑨ その他軽作業

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション (月 1 回実施)
- ② ミニレクリエーション (月 2 回実施)
- ③ 音楽教室 (月 2 回実施)
- ④ 旅行 (年 1 回実施)
- ⑤ 運動プログラム (週 3 日～5 日実施)
- ⑥ 夕方生活支援事業 (週 3 日実施)

3) 行事

- 4 月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5 月 障がい者運動会
- 6 月 競馬博物館見学
- 7 月 夏祭り
- 8 月 川遊び
- 9 月 昭和記念公園散策
- 10 月 旅行 (埼玉県)
- 11 月 お楽しみ会
- 12 月 クリスマス会
- 1 月 新成人を祝う会
- 2 月 多摩動物公園散策
- 3 月 狭山公園散策

6 日 課

開所・送迎	8 : 3 0 ~ 9 : 3 0
朝礼	9 : 0 0 ~ 9 : 3 0
活動	9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
(作業・運動 P G)	
昼休み	1 2 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0
昼礼	1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 1 0
活動	1 4 : 1 0 ~ 1 5 : 3 0
(作業・運動 P G)	
実績記入・お茶	1 5 : 3 0 ~ 1 5 : 5 0
終礼	1 5 : 5 0 ~ 1 6 : 0 0
送迎・清掃	1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
ミーティング	1 7 : 0 0 ~ 1 7 : 3 0

7 重点課題・目標に対する評価

1) 活動

(1) 情報共有の徹底とその共有に基づいたチーム支援の実施

ケース記録やミーティング記録を正確に記載するほか、日々のミーティング等での意見交換を丁寧に行い、利用者の状況について職員間及びグループ間の情報共有を徹底する。また、その状況に応じて支援の評価、検証を行い、必要に応じて支援方針の見直しを行いながら、支援計画に沿ったチーム支援を実施する。

【成果と課題】

年度当初に施設長の事業管理、職員全般の業務や支援に対する姿勢、情報共有などについて法人から指導があり、改善へ向けた取り組みを始め、ケース記録については、職員によって差はあるものの昨年度と比べ記録が丁寧になってきている。ミーティング記録も書式を変更したことで記録が整理された。ただし、施設長と職員間、又職員同士のコミュニケーションが不足することが多々あり、事業

の目的意識の共有や協調体制が不十分となった。また、利用者支援の基本理念の共有が進まず、支援の質やリスク管理においても課題が多く残った。年度後半に施設長とグループリーダーのコミュニケーション強化から改善への取り組みを始めたが、見守り不足による離接や利用者の立場に立った支援が行われていない場面などは引き続き見られた。

(2) 新規利用者の円滑な新生活への移行

利用者情報のアセスメントを丁寧に行うと共に、関係性の構築を図り、新しい生活にスムーズに移行し、社会人として成長していけるよう支援を行う。

【成果と課題】

2月、3月に実施された特別支援学校主催の移行支援会議に参加し、新規利用者8名の学校での生活の様子や支援上の留意点、希望する活動などについてヒアリングを行い、その情報を職員間で共有した。年度当初は多少の混乱があったものの、3か月を過ぎる頃には8名ともに新しい環境に慣れ、概ねスムーズに新しい生活へ移行することができた。個々の意思や選択の尊重と集団行動のバランスを図りながら支援にあたり、時間の経過とともに周囲との関係性が構築されつつある。

(3) 活動内容と支援の充実

<1F・2F共通の目標>

- ① 利用者のニーズにきめ細かく対応すると共に、利用者数の増加に対応するために、現在の活動内容の充実を図るほか、利用者の嗜好、特性等に応じた活動の開発を行う。(必要に応じて個別の対応も実施する)

【成果と課題】

30年度下半期に利用者全員から聴取した活動への希望を基に、第1、第3木曜日の午後の時間帯に、以下のような活動を実施し、多くの利用者が意欲的に参加した。

- ア、ゲーム大会 - 5回実施、利用者計27名参加
活動室内で幾つかのグループに分かれ、黒ひげ危機一髪やトランプ、UNOなどを実施。
- イ、屋外遊び - 9回実施、利用者計25名参加
小平中央公園に移動し、ボール遊び、バドミントン、シャボン玉、サッカーなどを実施。
- ウ、映画鑑賞 - 4回実施、利用者計26名参加
2F活動室や相談室を利用し、トイストーリーやハリーポッターなどの映画を上映。
- エ、創作活動 - 4回実施、利用者計29名参加
活動室内で、塗り絵や粘土を使用しての創作活動を実施。
- オ、レクリエーション準備 - 1回実施、利用者計18名参加
活動室内で、レクリエーションで使用する備品(お面、お神輿、飾り付け)を作成。
- カ、他施設訪問 - 1回実施、利用者計3名参加
近隣の他施設(ひまわりばたけ)が主催するハロウィンパーティーに参加。

身体介護が必要な新規利用者1名に対して、8月からPCウォーカーを使用した歩行訓練を実施した。2週間に1回程度の実施で、下肢機能の向上には至っていない。今後回数の増加が必要と考えている。

- ② 休憩時間の充実を図るため、利用者の興味に応じた嗜好品(本やパズルなど)を増やすほか、作業時間とのメリハリをつけられるよう、ソファなどゆっくり体を休めることができるような備品を増やす。

【成果と課題】

利用者が楽しめるようなゲームやDVD、音楽CDを準備し、休み時間に各々自分なりの過ごし方が出来るようになってきた。また、ソファを1台から3台に増やし、ゆっくり過ごしたい利用者の為の環境も改善できた。

<各グループの目標>

- 1F(主に身体介護や自発的行動への支援が必要なグループ)
 - 利用者が意欲的に参加できるような活動を提供するほか、健康管理や衛生保持を丁寧に実施する。また、身体介護が必要な方に対しては、たいよう福祉センター内入浴室の貸し出しを利用し、週1回入浴サービスを提供する。

【成果と課題】

1) - (3) - ①に記載した通り、第1、第3木曜日に利用者が楽しんで参加できるような活動を提供したほか、作業面でも、物を運ぶことが中心の2つの作業（堆肥配布、小型家電回収）を新たに開始した。双方ともに参加を希望する利用者は多く、活動意欲の向上に繋がっている。健康管理や衛生保持については、看護師を中心に家族やグループホームと連携を図りながら実施したが、8月に利用者1名が肝炎に罹った際、当該利用者の近くにいた利用者家族に対する報告が遅くなってしまったことは、事業所としての大きな反省点となった。身体介護が必要な利用者2名に対しては、たいよう福祉センター内の入浴室を借り、毎週木曜日に入浴を実施した。しかし、3月はコロナウイルス感染予防の為使用不可となり、実施できなかった。

2 F（主にコミュニケーションや社会性への支援が必要なグループ）

- 利用者が安定した気持ちで活動できるような環境を設定するとともに、見守りを強化し、他害行動や自傷行為などの防止を徹底する。

【成果と課題】

他の利用者の行動や声に敏感に反応する利用者に対して、パーテーションや個室を利用し、環境面での配慮を行ったほか、朝礼や昼礼時に、作業で使用する道具を利用者一人ひとり示すことで作業内容を分かりやすくした。利用者の多くは経験から一日の流れを把握し、周囲との関係性も出来てきていることから、情緒面の安定がみられ、他害や自傷行為は大幅に減少している。見守りについても、職員配置や各利用者の特徴の把握などの事前防止のノウハウが蓄積されてきている。

（4）新規作業開拓と工賃の保障

利用者数の増加に対し、一人ひとりの生産活動への参加機会を保障する為、新規作業開拓を行うほか、月額平均工賃4,000円以上（前年度6,015円）を目指す。

【成果と課題】

小平市資源循環課より依頼があり、5月から堆肥配布業務、8月から使用済み小型家電回収業務を開始した。双方ともに物を運ぶことが中心の作業であり、作業工程が理解しやすく、多くの利用者が参加している。資源回収作業の単価が下がった影響により、11月から大幅に収入が減ったものの、月額平均工賃は4,217円と目標を上回った。

2) 人材育成

（1）生活支援員

（グループリーダー）

- ① 各職員の行動に関心を持ち、事業方針に沿った指導や意見を行うほか、活動全体を視野に入れて業務を行う。
- ② 現場職員と施設長の橋渡しの役割を担うと共に、グループ間の情報共有を密にとる。
- ③ 利用者家族と連絡調整を通じて、信頼関係を構築する。
- ④ 衛生推進者養成講習を受講し、事業所内の衛生管理に関する知識向上を図る。

【成果と課題】

2名のグループリーダーの内1名は体調不良により、年度後半より施設長が兼務で代行することとなった。

- ① 昨年度と比べ、支援方法や個々の記録について、職員へ指導や意見を行う場面が増えているが、合意形成が不十分なことも多い。
- ② 自身の所属するグループ活動の把握は概ねできているが、一方のグループの状況については関心が薄い場面があった。また、施設長とのコミュニケーションも不足していた。
- ③ 利用者家族との信頼関係の構築は少しずつ進んでおり、相談を受ける回数も増えてきている。
- ④ 1月に衛生推進者養成講習を受講し、衛生管理に関する知識の習得が進んだ。
- ⑤ 強度行動障害支援者養成基礎研修及び実践研修を受講した。

（全職員）

- ① 利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルの向上。
- ② 伝達や報告の手法、ケース記録やミーティング記録の作成など情報共有に必要なスキルの向上。
- ③ 活動内容や支援方法に対して自己の意見を表明し、積極的に事業に関わる姿勢を持つ。

【成果と課題】

- ① 年度当初に利用者の立場に立った支援の必要性について法人から指導があり、利用者への関わり方など、基本的な姿勢から取り組んだ。少しずつ全体の意識は変わってきているが、年度後半でも利用者の心情に寄り添っていない場面が見られた。
- ② 昨年度と比べ、記録は丁寧に作成されている。報告については、報告漏れや報告の速度が遅い場面が散見され、課題は多い。
- ③ 活動や支援方法への意見の表出は活発になってきているが、自分で考え行動する力は全体的に不足している。

(2) 出納職員

- ① 経理業務の正確性と速度の更なる向上。
- ② 学習会の実施による会計基準、経理規程、各種計算書類に関する知識の向上。
- ③ 出納職員候補の育成。

【成果と課題】

年度当初に出納職員候補1名を選抜し、出納業務の補助（証憑整理や伝票入力）から始め、11月に出納職員を交代した。日常業務を通じて継続して指導を行っており、仕訳等の修正はあるもの出納業務の正確性と速度は向上してきている。経理規程全般の理解や計算書類の分析等はまだまだ不十分である。

3) 経営管理

(1) 運営収入の安定確保

① 介護給付費

1日平均利用者35人（44人在籍、利用率80%）を目標とする（30年度1日平均利用者数28人）。常勤換算16.5名以上の生活支援員等を確保し、年間を通して人員配置体制加算Ⅰ型を算定する（30年度4月～5月Ⅱ型、6月～2月Ⅰ型、3月Ⅲ型算定）。これにより、前年度比約2,800万円の増収を図る。

【成果と課題】

4月に新規利用者8名が増え、在籍43名、1日平均利用者数36.4名、利用率90.9%と目標を上回った。また、年間を通して人員配置体制加算Ⅰ型を算定したほか、強度行動障害支援者養成基礎及び実践研修を2名が受講し、12月より重度障害者支援加算を取得した。これにより、給付費が1億2,800万円となり、前年度と比べ3,860万円の増収となった。年度当初派遣職員の採用で人件費が前年度比で大幅に増額となったが、直接雇用への段階的な切り替えで経営状態は改善した。3月はコロナウィルス流行の影響があり、計画より45万円程度の減収となった。

② 助成金

送迎車両1台の購入にあたり、東京都共同募金A配分を申請し、250万円の収入を得る。

【成果と課題】

5月に申請を行い、230万円の配分が決定した。令和元年12月にリフト付き車両を取得した。

(2) 経費削減

使用していない活動場所の電気やエアコンの消し忘れをなくし、節電を徹底する。

【成果と課題】

昨年度と比べ、節電の意識は浸透しつつあるものの、使用していない部屋や廊下の消し忘れなどは未だ見られた。

(3) 計画的な予算執行

毎月の月次試算分析を正確に行うとともに、必要に応じて補正を行い、年間を通して計画的に予算執行を行う。

【成果と課題】

毎月の月次試算分析に基づき、概ね計画的に予算執行を行うことができた。

(4) 利用者受入れ計画の作成

施設機能の適正規模を考えながら、新規受け入れ人数の上限を定め、計画的な受入れを実施する。

【成果と課題】

令和元年度末の在籍者数は43名で一日平均利用者数が36.4名であった。活動スペースや送迎車両の運用から、新規利用者の受入れが限界に近づいてきている。特別支援学校高等部の実習生5名受け入れ、施設の適正規模を検証した結果、一日平均利用者数は40名が限界と判断した。週の通所日数にもよるが、あと3名程度の受入れとなる。次年度4月に特別支援学校卒業生3名が新たに通所開始となる予定であることから、これ以降新規受け入れは困難な状況となった。

8 その他の成果と課題

1) 社会福祉法人六三四との合同送迎の実施

社会福祉法人六三四と協力し、清瀬方面に住む利用者4名の送迎を共同で行う取り組みを実施した。これにより、送迎の効率化が図られた。次年度以降も継続して実施する予定である。

2) みどり便りの発行

活動の透明化や健康面に関する看護師からの情報提供等を目的とし、「みどり便り」を1月に発行した。多くの利用者や家族から好評だったことから、今後も継続して発行する予定である。

3) 職員の相互派遣（対象：夢風船）

生活介護事業所間の連携強化を目的として、夢風船と相互に職員を派遣し合った。（11月から週2日実施）。これにより、夢風船の取組みを取り入れるなど、業務改善に役立てることができた。

4) 市民による小平市への虐待通報

活動時における職員の支援方法について、虐待ではないかと市民から小平市へ通報があった。市による調査の結果、虐待ではないと認定されたが、利用者の心情を考えずに強引な誘導を行ったという不適切な対応であり、支援の在り方を見直す必要性を感じている。なお、この件について利用者及び家族に報告を行い謝罪した。

9 開所状況

- | | | |
|---------|-------------|-----------------|
| 1) 開所期間 | 自 平成31年4月1日 | 至 令和2年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数 | 5日間 |
| | (2) 開所時間 | 午前9時～午後4時 |
| | (3) 年間延開所日数 | 243日間（前年度 244日） |
| | (4) 平均活動時間 | 7時間 |

10 利用状況

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1) 利用者延人員 | 8,839人（前年度 6,827人） |
| 2) 1日平均利用人員 | 36.4人（前年度 28.0人） |
| 3) 体験実習者延人員 | 39人（前年度 66人） |
| 4) 1日平均実習人員 | 0.2人（前年度 0.3人） |
| 5) 実習者実人員 | 12人（前年度 17人） |

11 利用者状況（令和2年3月31日現在）

1) 年齢

- | | |
|------------|-----|
| 20歳未満 | 11名 |
| 20歳以上30歳未満 | 19名 |
| 30歳以上40歳未満 | 7名 |
| 40歳以上50歳未満 | 4名 |
| 50歳以上60歳未満 | 0名 |
| 60歳以上70歳未満 | 2名 |
| 70歳以上 | 0名 |

2) 障害の状況

愛の手帳1度	1名	(内身障手帳所持1名)
愛の手帳2度	36名	(内身障手帳所持3名)
愛の手帳3度	2名	
愛の手帳4度	2名	(内身障手帳所持1名、精神保健手帳所持1名)
身体障害者手帳1級	6名	(内愛の手帳所持5名)
精神保健福祉手帳2級	1名	(内愛の手帳所持1名)

障害支援区分

平均障害支援区分 5.0

3) 通所手段

送迎車利用	43名	(内1名家族送迎、内1名徒歩等、内1名交通機関利用と併用)
徒歩等	1名	(内1名送迎車利用と併用)
家族送迎	1名	(内1名送迎車利用と併用)
交通機関利用	1名	(内1名送迎車利用と併用)

4) 居住状況

管内居住 32名 管外居住 11名

5) 性別

男性 34名 女性 9名

1.2 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 4,217円 (前年度 5,945円)
日給 : 251円 (前年度 368円)

1.3 夕方生活支援実施状況

1) 実施日数	148日	(前年度 130日)
2) 利用者 (令和2年3月31日現在)		
(1) 利用者数	33人	(前年度 29名)
(2) 利用者延人数	811人	(前年度 645名)
3) 支援者 (令和2年3月31日現在)		
(1) 職員	51人	
(2) 職員延人数	571人	
4) 内容		
(1) ボウリング	12回	
(2) カラオケ	22回	
(3) 入浴	21回	
(4) プール	15回	
(5) 散歩	12回	
(6) 料理	12回	
(7) パソコン	23回	
(8) ゲームセンター	13回	
(9) ドライブ	12回	
(10) スイカ割り	1回	
(11) 初詣	1回	
(12) 音楽鑑賞	1回	
(13) ストレッチ	1回	
(14) 映画鑑賞	2回	

1.4 生活支援PG実施状況

1) 実施日数 (1) PG実施日数 206日 (前年度 204日)

	(2) 週平均実施日数	4. 5日 (前年度 4. 5日)
2) 利用者 (令和2年3月31日現在)		
	(1) 利用者数	11人 (前年度 10名)
	(2) 利用者延人数	761人 (前年度 720名)
3) 支援者 (令和2年3月31日現在)		
	(1) 職員	23人
	(2) アルバイト	8人
	(3) 職員延人数	454人
	(4) アルバイト延人数	307人
4) 内容		
	(1) ウォーキング	568回
	(2) プール	193回

1.5 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

1.6 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウィルス感染拡大防止のため中止とした。